

星野道夫

永遠とわの祈り

—— 共生の未来を目指して ——

濁川孝志



『星野道夫 永遠とわの祈り』によせて

東京大学名誉教授 矢作直樹

濁川先生の前作『星野道夫の神話』に続いて今回の力作『星野道夫 永遠の祈り』の推薦文を書かせていただきます。

星野道夫は、「共生」、「多様性」、そして「靈性」を大切にしてきました。「共生」と「多様性」は、人類が調和を保って生きていく基本です。そしてその「共生」と「多様性」を理解できる感性が「靈性」、すなわち五感で捉えるこの世界と五感を越えたもので感じる他界（高次元世界）を受け入れられる感性です。これはどこか別の人の話ではなくまさに私たちに備わった感性です。

本書は、星野道夫に造詣の深い方々を想定した前著とは異なり、一般市民の日常に焦点を移し、そこに横たわる様々な問題に関して、星野道夫の言葉を借りながら心の支えとなるようなメッセージを投げかけたものです。これらのメッセージの背景には「共生」「多様性」そして「靈性」というキーワードが横たわっています。あらためて豊かな靈性を備えた星野道夫の声に読者とともに耳を傾けたいという著者の息吹を感じられることでしょう。

時間に追われ自分を振り返る余裕を失くし、日常に不安を抱え生き惑う現代人を、星野道夫はいつも静かな眼差しで見つめ、そんな私たちに癒しと安らぎを与え、同時に生きる希望をもたらしてくれます。

文明が自然との調和を度外視して、無軌道に膨張してゆくようにしか見えない現在、星野道夫が遺したメッセージは、相対的にいよいよその輝きを増して行くようです。これが、この本に込めた著者濁川先生の想いです。

星野道夫は、「目に見えないもの」を大切に思う人でした。彼は、社会が持つ価値観につい

て自分の想いを次のように語っています。

「目に見えるものに価値を置く社会と、目に見えないものに価値を置く社会を思うとき、自分は後者の思想に強く魅かれる。」

ここで、「目に見えるもの」とは物質、「目に見えないもの」とは精神性や霊性と置き換えることができます。今、正に星野道夫が想いを寄せた「目に見えないものに価値をおく社会」が求められているのだと思います。もちろん私たちの生活を便利で快適にしてくれた「物質」はとても重要です。しかし、大切なのは両者のバランスです。今の世の中は、物質偏重の傾向が強すぎると思うのです。現代社会には、星野道夫が求めた価値観、すなわち「目に見えないもの」を大切に思う精神が重要で、多くの人たちがこの価値観に目覚めた時こそ、その先に「共生の未来社会」が創造されるのだと思います。

あらためて本書で取り上げた主なテーマについてみてみます。

・現代人のもつべき矜持

- ・中今に生きることの重要性
- ・靈性の重要性
- ・老いるこの意味するもの
- ・死の意味するもの
- ・心の静けさの重要性
- ・現代人が失いつつある想像力の重要性
- ・許すことの難しさ、そしてその大切さ
- ・自然と共に生きた先住民たちの教え

まさに今を生きる人たちへの大切なメッセージばかりです。どうか一つひとつのテーマを噛みしめて、そして納得いただければと思います。

最後に「月光浴」というタイトルで、星野道夫に触発された著者の旅のエッセイが付されています。このエッセイから「星野道夫に出会えて、著者の人生がとても豊かになりました」という著者の感動が伝わってきます。本書が読者の皆様の人生に必ずや資することを確信し推薦させていただきます。